

TOPICS

[Vol.64]

女性骨盤底障害(腹圧性尿失禁と骨盤臓器脱)
泌尿器科 荒木 勇雄、水流 輝彦
女性診療科 脇ノ上 史朗

女性骨盤底(機能) 障害とは？

女性の骨盤底は、男性に較べると広く、もともと内臓を支えるのにはかなり無理がかかっていることが分かっています。特に経産分娩を経験すると骨盤底を支える筋肉は一部破損したり機能的な障害が残ることが多いのです。更年期を迎え、女性ホルモンの低下とともにさらに進行していきます。

膀胱や尿道、直腸、子宮といった骨盤内臓器を支えている骨盤底筋群が脆弱化することによって起こる障害を骨盤底(機能)障害といいます。

代表的な病気として、「腹圧性尿失禁」や「骨盤臓器脱(性器脱)」があります。ある調査によると、女性がこの2つの病気で手術治療を受ける確率

は、11.1%もあると報告されています。

泌尿器科では、これらの病気を対象として、女性診療科とも協力して、金曜日の午後に「女性泌尿器外来」(予約制)を開設しています(電話予約可: 077-548-2567)。

腹圧性尿失禁について

「腹圧性尿失禁」は、尿道を支えている骨盤底筋が弱くなって、尿道の締まりが緩くなったために、せきやくしゃみなどで急に腹部に力が入った時

に尿が漏れる病気です(図1)。50歳代をピークにして幅広い年齢層の女性を悩ませます。

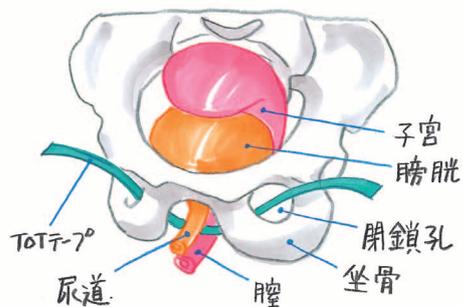
(図1)



(図2)

軽症では、理学療法や薬物療法が有効なことがあります。中等症以上では手術療法が必要となります。現在の主流は、お腹を開けることなく、膣壁を数センチ切開して人工線維(ポリプロピレン)製のテープで尿道を支える

中部尿道スリング手術です。30分程度の短時間でできる安全で簡便な手術で、治癒率も90%以上です(図2)。入院期間も4日間程です。当院では、より安全性の高まった最新のスリング手術(TOT手術)を行っています。



その他の尿失禁

同じ尿失禁でも、急にオシッコがしなくなってトイレまで間に合わずに尿を漏らしてしまう「切迫性尿失禁」は、

膀胱が過敏になる「過活動膀胱」が原因です。これは、男女共通の尿失禁で、手術ではなく薬物治療がよく効きます。

過活動膀胱の治療は、女性泌尿器外来だけではなく、一般泌尿器外来でも受けられます。

骨盤臓器脱について

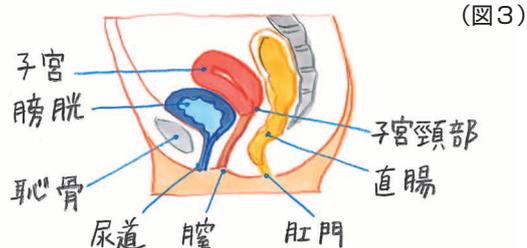
「骨盤臓器脱」とは、膣周囲の臓器を支えている骨盤底筋が弱くなって、膀胱や子宮、直腸といった臓器がだんだんと下がってしまい、やがて膣から外に出てしまう病気です（図3）。40歳代以降閉経とともに急速に増加します。

治療方法としては、膣内に器具を挿入して脱出を押さえ込む方法と手術療法があります。根本的な治療法は手術ですが、従来の手術法では重症の場合は再発率が高いことが問題でした。当院で行っている手術方法は、開腹することではなく、膣から人工線維（ポリプロピレン）のできたメッシュ状のシートを使って膣周囲の筋膜を補強して吊り上げる最新の低侵襲手術（TVM手

術）です（図4）。この手術法では再発はほとんど認められません（治療率は95%程度）。また、子宮脱に対しても、

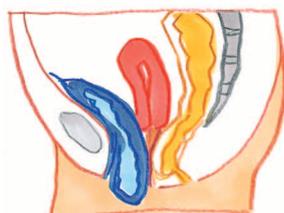
子宮を摘出することなく温存することができます。手術後1週間程度で退院していただけます。

正常

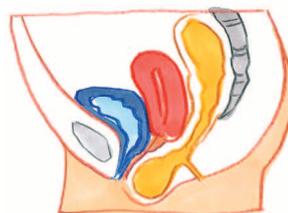


(図3)

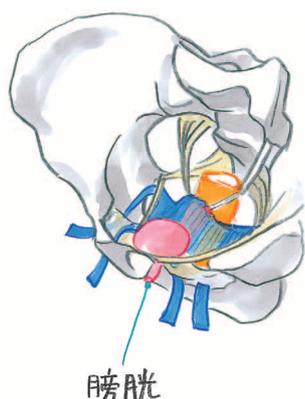
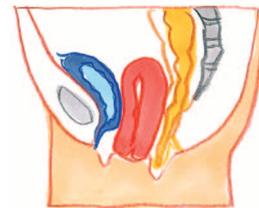
膀胱瘤



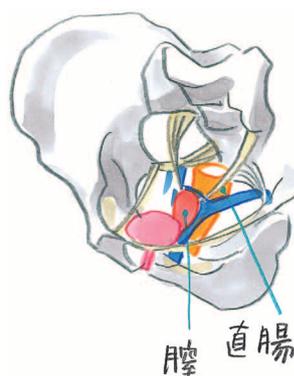
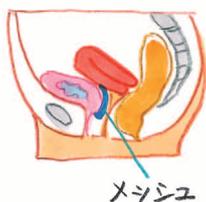
直腸瘤



子宮脱

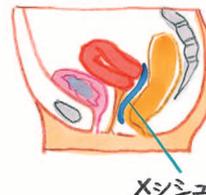


TVM手術
(膀胱瘤)



TVM手術
(子宮脱・直腸瘤)

(図4)



骨盤臓器脱には排尿のトラブルが多い

骨盤臓器脱には、先に述べた腹圧性尿失禁を合併することがよくあります（40～60%程度）。また、骨盤臓器脱が原因となって、過活動膀胱（頻尿、

切迫性尿失禁）（50～70%）や排尿困難、尿閉といった排尿のトラブルが引き起こされることもよく知られています。したがって、骨盤臓器脱を治療するこ

とによって、排尿困難や過活動膀胱はほとんどの場合よくなります。

滋賀医科大学医学部附属病院 理念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

滋賀医大病院ニュース第37号別冊 編集・発行：滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192 大津市瀬田月輪町
TEL：077(548)2012(企画調整室)
過去のTOPICS(PDF版)はホームページでご覧いただけます。

●理念を実現するための 基本方針

- 患者さん本位の医療を実践します
- 信頼・安心・満足を与える病院を目指します
- あたたかい心で最先端の医療を提供します
- 地域に密着した大学病院を目指します
- 世界に通用する医療人を育成します
- 健全な病院経営を目指します